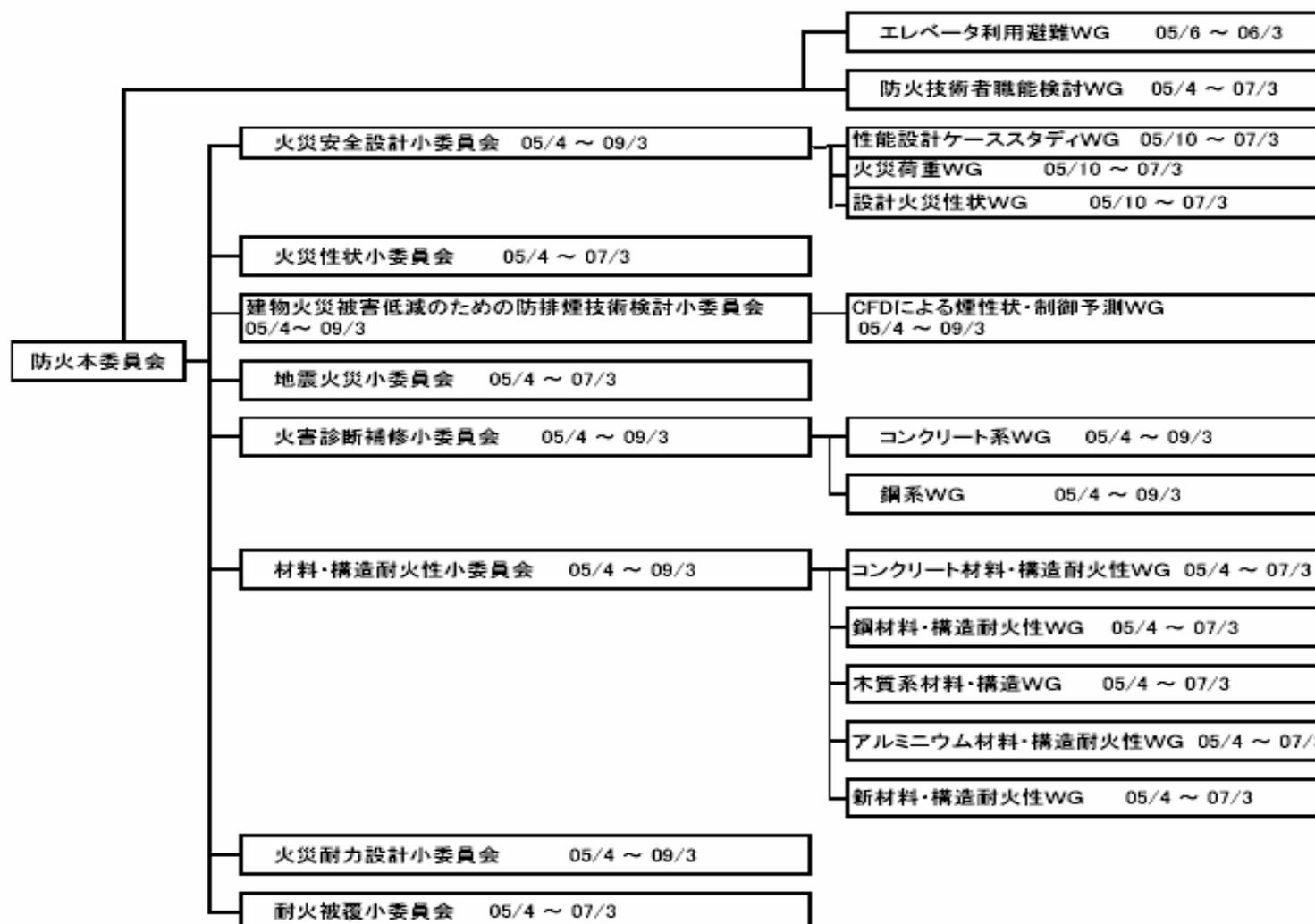

2005～2006度調査研究委員会活動報告会
防火委員会

06年大会発表題数159(全体の2.7%)

2005年度防火委員会 組織図



防火委員会の目標と課題

- 3つの目標

- (1) 建築火災に係わるリスクの解明
- (2) 建築防火に係わる科学技術の深化
- (3) 建築防火に係わる人材の育成



新しいリスクに備える

- 巨大地震など自然リスクに備える

 - 地震火災小委員会など

 - 連続公開研究会 地震火災対策の課題と方向など

- 高齢化など社会リスクに備える

 - エレベーター利用避難WG・火害診断補修小委員会など

 - 刊行 火災時のエレベーターを利用した避難計画指針など

- 新素材など技術リスクに備える

 - 材料・構造耐火性小委員会など

 - 刊行 構造材料の耐火性ガイドブックなど

防火技術の深化をはかる

■ 防火性能設計法の開発

火災安全設計小委員会・火災性状小委員会・火災耐力設計小委員会など

シンポ 局所火災に関する耐火設計を考える (05.2)、高齢者福祉施設の性能的火災安全設計(07.1)など

研協 性能設計時代の建築防火と消防防災(06.9)など

■ 創造的防火技術の開発

防排煙技術検討小委員会・材料・構造耐火性小委員会・耐火被覆小委員会など

研協 木造建築物の火災安全(05. 10) など

防火専門家の育成をはかる

- 防火技術者の職能と地位の向上

防火技術者職能検討WGなど

シンポ 「防火技術者」はどうあるべきか (07.1)など



火災安全設計法小委員会

目的： 建築物の火災安全を確保する設計の基本原則、手順、工学的なツール、基礎資料などをまとめる。

活動： 設計実務における火災安全設計の問題点を整理。
シンポジウム「高齢者福祉施設の性能的火災安全設計」を開催(2007.1.19)。

WGの活動：

性能設計ケーススタディWG

高齢者施設の火災安全設計を行い、国際シンポジウムに発表。

設計火災性状WG

設計火源の標準化に関するアンケート調査を実施。

収納物の燃え広がり予測法について基礎的な検討。

火災荷重WG

過去の可燃物調査のレビューを実施。

設計火源想定に利用するための標準フォーマットを検討。

火災性状小委員会

背景 社会的背景の変化に伴う火災リスクの変化

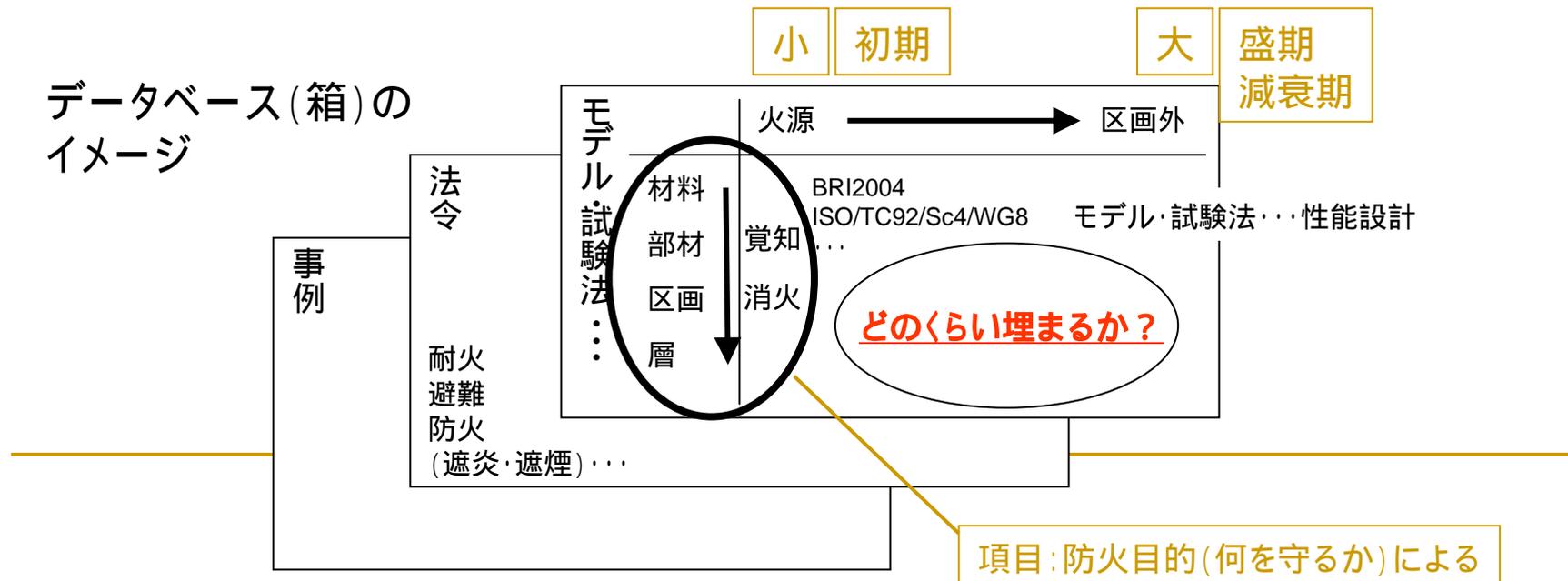
目標: 火災性状研究の到達点と将来的研究課題の明確化
21世紀の設計用火災像

データベースの作成による研究情報のマッピング = **問題提起**

(箱)

「箱」がどのくらい埋まるか = 到達点の整理

データベース(箱)の
イメージ



防排煙技術検討小委員会

背景

既往の多くの防排煙技術は、避難安全目的で、火災初期を対象

ex.自然排煙・機械排煙（



最近では、消防用排煙等、消防活動目的を含め、全火災期間を対象とした防排煙対策が対象

ex.加圧による拠点確保、階段室加圧

煙害による倉庫建物等の物損、IT機器等、設備損傷による毀損。その他残留臭気等による健康への長期的影響も防排煙の新たな検討対象に。

目標



防排煙技術としての対象・手法の多様化。

個々の防排煙に必要な性能要件と技術的課題を原点に立ち返り検討・整理。

地震火災小委員会

■ 目的

- 2005年度 過去の地震火災の性状や特性の考察
- 2006年度 首都直下地震など今後予想される地震火災の特性の考察
- 2007年度 現代都市の地震火災の性状予測と対策検討

■ 平成18年度の活動内容

- これまでの地震火災研究の到達点と課題の明確化を目的に連続公開小委員会を開催。
- 第1回連続公開小委員会：「都市防火総プロから防災まちづくり総プロへ」part1
- 第2回連続公開小委員会：「都市防火総プロから防災まちづくり総プロへ」part2
- 第3回連続公開小委員会：「防災まちづくり総プロの成果と課題」
- 若手研究者，行政職員を含む一般参加者とともに議論を行った。

■ 今後の予定と課題

- 平成19年度
 - 連続公開小委員会を高い頻度(1回 / 2月)で開催
 - 首都直下地震等，今後の予想される地震火災についての知見を集約
 - 対策とセットで提言を行うシンポジウムの開催
- ~~公開小委員会を若手研究者の育成，また，提言に向けて行政等の提言の受け皿組織との関係づくりの場と位置づけ，積極的な参加を呼びかける。~~

火害診断補修小員会

本年度の活動内容

2004年3月に発行した「建物の火害診断及び補修・補強方法」を修正・追記し、改訂版発行(2006年8月)。

指針化するために、上記出版物を元に大幅に見直し、修正の作業に着手。

そのために、傘下にコンクリート系WG及び鋼系WGを設置し、検討。

来年度以降の活動計画

指針化に向け、本年度の活動を継続し、原稿を完成させる。

2008年12月に「火害診断及び補修・補強指針」(RC造及びS造)として出版予定。

木造等、各種構造の火害診断・補修法の検討。

材料・構造耐火性小委員会

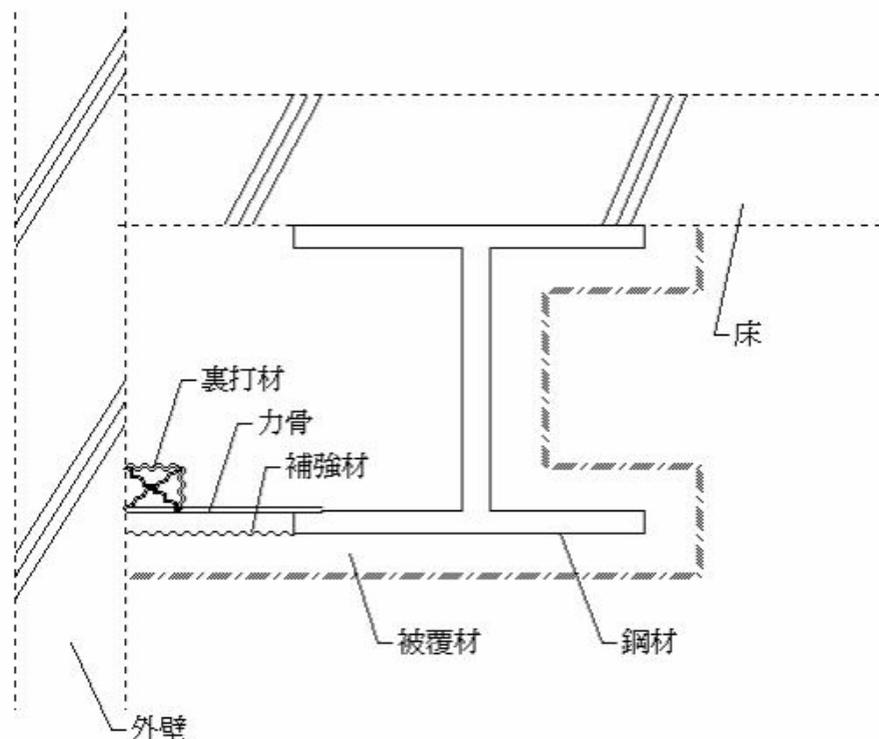
- 設置期間：2005年4月～2009年3月
 - 設置目的：2004年に刊行した「構造材料の耐火性ガイドブック」の改訂を主目的とする。
 - 活動経過：2005年度～2006年度は各種構造材料の高温性状及び高温物性試験法に関する新情報を収集。
 - 活動計画：2008年度に予定している改訂版刊行に向け、改訂作業を継続。具体的作業は、コンクリート材料、鋼材料、木質系材料、アルミニウム材料、新材料を扱うWGと今年度から新たに設置する耐火被覆性能評価WGの6WGで行う。
-

火災耐力小委員会

- 設置期間：2005年4月～2009年3月
 - 設置目的：コンクリート系構造物の火災耐力設計指針(案)の作成を主目的とする。
 - 活動経過：2005年度～2006年度は文献調査・柱および梁部材解析；特に、部材の高温時曲げ耐力の検討。
 - 活動計画：2008年度に予定している指針刊行に向け、作業を継続中。具体的には盛期火災を対象としたRC部材の耐力設計を目指す。
-

耐火被覆小委員会

合成耐火被覆を施した柱・はりの耐火性能検討



合成耐火被覆を施したはりイメージ図

以下の項目を整理している

1. 製品について

工法と種類について類型化
柱・はり部材と外壁の距離
外壁材・耐火被覆材の
厚・密度

2. 試験方法について

試験方法の変遷
現行試験の状況

3. 施工について

施工方法
品質管理